

2021年7月2日

公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会 会長 様
環境省近畿地方環境事務所 所長 様
大阪市港湾局 局長 様

関西自然保護機構 会長 石井 実
連絡先：大阪市東住吉区長居公園 1-23
大阪自然史センター 気付
TEL: 06-6697-6262



夢洲におけるヨシ群落及びそれに隣接する水辺環境の保全を求める要望書 2021年7月

関西自然保護機構では、2020年4月28日に大阪市住之江区の夢洲のヨシ群落及びそれに隣接する水辺環境について、別紙1のような申し入れを公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会様宛に、2020年8月28日に別紙2のような申し入れを公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会様、環境省近畿地方環境事務所様、大阪市港湾局様宛に提出させていただきました。

それらの申し入れでは、夢洲は絶滅危惧II類のコアジサシの繁殖地、カモ類の越冬地やシギ・チドリ類の中継地として重要であることを指摘し、「日本の重要湿地500」である隣接する大阪南港野鳥園同様に重要な環境であること、大阪府のレッドリスト及び、大阪市の生物多様性地域戦略で、夢洲を生物多様性の保全上特に重要な場所としていることを指摘させていただきました。当該の夢洲南東部の規模の大きなヨシ群落には、ウラギク（環境省・大阪府RDBで準絶滅危惧）、チュウヒ（環境省RDBで絶滅危惧IB類）、ツクシガモ（環境省レッドリスト2019で絶滅危惧II類）の生息地・越冬地になっていることを指摘し、その保全を要望させていただきました。さらに、2020年7月の植物調査において、大阪府では絶滅したとされるカワツルモの確認をお伝えし、夢洲が生育地として極めて重要な場所であることを指摘、「都市と自然環境の共存」の象徴として保全を要望してきました。

このたび大阪市立自然史博物館から上記の発見が「水草研究会誌」に報告され、保全上の重要性を指摘するプレスリリースが公開されました（別紙3）。

関西自然保護機構としては、工事の進展に伴い、再度カワツルモを中心としたヨシ群落の植物の保全を要望し、改めてSDGs理念を実現する万博会場としてふさわしい「都市と自然環境の共存」の象徴としての保全・管理を要望いたします。

具体的には

- ・工事期間を通じた、ヨシ群落及び隣接する水辺環境の保全
- ・工事期間終了後も残置の開放水域の一部としての保全

が必要です。

工事工程がそれを許さない場合には、困難ではありますが移植やミティゲーション（代替生息地の確保）による対応策について助言させていただきたいと思っております。ぜひ貴重な植物の保全のための検討をお願いします。

夢洲は人工の地盤ではありますが、そこに再生したヨシ原及び動植物は自然の営力によって再生した大阪湾のポテンシャルによるものです。関係各位におかれましては、夢洲におけるヨシ群落及びそれに隣接する水辺環境の重要性を認識していただき、保全のための努力をあらためて要望します。

公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会
会長 中西 宏明 様

関西自然保護機構 会長 石井 実
連絡先：大阪市東住吉区長居公園 1-23
大阪自然史センター 気付
TEL: 06-6697-6262



夢洲におけるヨシ群落及びそれに隣接する水辺環境の保全を求める要望書

2020年4月現在、大阪市住之江区にある夢洲は、広大な裸地や草地、水たまりが広がっており、環境省レッドリスト 2019 で絶滅危惧 II 類のコアジサシの繁殖が記録されているほか、大阪湾最大のカモ類の越冬地の一つであり、渡りの季節には希少種を含む多くのシギ・チドリ類の中継地としても重要です。隣接する大阪南港野鳥園は、渡りのシギ・チドリ類の種数・個体数が多いことから「日本の重要湿地 500」の一つに選定されていますが、夢洲の水域やそれに隣接するヨシ群落は、それよりも規模が大きく、重要性も高いと考えられます。こうした理由から、大阪府のレッドリスト及び、大阪市の生物多様性地域戦略では、夢洲を生物多様性の保全上特に重要な場所（Aランク：広域的な観点で見ても特に重要な場所）として取り上げています。

特に、夢洲南東部には、約1haの規模の大きなヨシ群落、及び隣接する浅い水域がまとまって残されています。このヨシ群落は、夢洲に浅い水域が成立した後に、風や鳥によって種子が運ばれ再生したものと考えられます。このヨシ群落には、ウラギク（環境省レッドリスト 2019、及び大阪府のレッドデータブックで準絶滅危惧）が生育しており、冬期にはチュウヒ（環境省レッドリスト 2019 で絶滅危惧 IB 類）も見られます。ヨシ群落の周辺水域は、瀬戸内海東部で最大のツクシガモ（環境省レッドリスト 2019 で絶滅危惧 II 類）の越冬地になっています。大規模なヨシ群落が少なくなっている大阪府や大阪湾岸の現状を考えると、夢洲に残るヨシ群落及びそれに隣接する水域を保全することは、大阪府周辺の生物多様性保全の観点から非常に重要です。また、水域にヨシ群落が隣接して広がっている風景は、かつて大阪低地部で広く見られた風景であり、夢洲に大阪の原風景が残ることは、都市と自然の共存という観点からも特筆できるものになるでしょう。

しかし、夢洲が2025年の万博会場となることが決まって以降、急ピッチでこうした湿地・水域の埋め立てが進行しています。現在まとまった規模でヨシ群落が残されている場所は、夢洲南東部の一部（別紙参照）のみとなっていますが、この群落の周辺ではすでに埋め立て工事が始まりつつあります。現在残されている、このヨシ群落とそれに隣接する水域を継続的に維持していることは、上記で述べたとおり、生物多様性保全の観点からは重要となります。

関係各位におかれましては、夢洲におけるヨシ群落及びそれに隣接する水辺環境の重要性を認識していただき、本群落の残置・保存に向けた対策をして頂けるよう要望します。なお、関西自然保護機構は、近畿地方における広い意味での自然保護の諸問題に対するアドバイザー・ボディ（助言勧告機関）として、必要な協働に参画する意志があることをお伝えしておきます。

別紙 夢洲で2020年現在まともに残されているヨシ群落の範囲（赤枠内）



2020年8月28日

公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 会長 中西宏明 様
環境省近畿地方環境事務所 所長 櫻井洋一 様
大阪市港湾局 局長 田中利光 様

関西自然保護機構 会長 石井 実
連絡先：大阪市東住吉区長居公園 1-23
大阪自然史センター 気付
TEL: 06-6697-6262

夢洲におけるヨシ群落及びそれに隣接する水辺環境の保全を求める要望書

関西自然保護機構では、2020年4月28日に大阪市住之江区の夢洲のヨシ群落及びそれに隣接する水辺環境について、別紙のような申し入れを公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会様宛にさせていただきました（別紙 2-1・2）。

その申し入れでは、夢洲は絶滅危惧 II 類のコアジサシの繁殖地、カモ類の越冬地やシギ・チドリ類の中継地として重要であることを指摘し、「日本の重要湿地 500」である隣接する大阪南港野鳥園同様に重要な環境であること、大阪府のレッドリスト及び、大阪市の生物多様性地域戦略で、夢洲を生物多様性の保全上特に重要な場所としていることを指摘させていただきました。当該の夢洲南東部の規模の大きなヨシ群落には、ウラギク（環境省・大阪府 RDB で準絶滅危惧）、チュウヒ（環境省 RDB で絶滅危惧 IB 類）、ツクシガモ（環境省レッドリスト 2019 で絶滅危惧 II 類）の生息地・越冬地になっていることを指摘し、その保全を要望させていただきました。

今回、当機構の助成する調査の一環として行われた 2020 年 7 月の植物調査において、この水域で大阪府では絶滅したとされるカワツルモが確認されました。カワツルモは汽水域に生育する水草ですが、全国的にも生育地が減少しています。隣接する和歌山県・兵庫県でも現在生育が確認できる場所がほとんどなく、最も絶滅の危険性が高い種として評価されています（和歌山県レッドデータブックで絶滅危惧 IA 類、兵庫県レッドデータブックで A ランク（絶滅危惧 IA 類に相当））。生育に適した環境が限定されることに加え、沿岸部の開発により全国的にも生育地が減少していることから、夢洲で発見された生育地は極めて重要な場所であると考えられます。

当該地域は、現在かろうじて埋め立てを免れていますが、こうした植物は移植による維持は極めて難しく、万博や IR 開発も含めた夢洲開発の理念でもある SDGs の配慮の一環として、また、「都市と自然環境の共存」の象徴としての保全を要望します。

具体的には

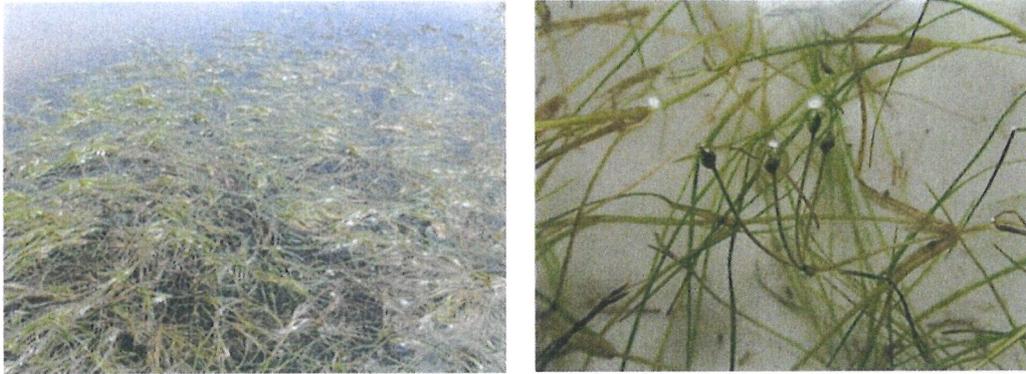
- ・ 工事期間を通じた、ヨシ群落及び隣接する水辺環境の保全
- ・ 工事期間終了後も残置の開放水域の一部としての保全

が必要です。

夢洲は人工の地盤ではありますが、そこに再生したヨシ原及び動植物は自然の営力によって再生した大阪湾のポテンシャルによるものです。関係各位におかれましては、夢洲におけるヨシ群落及びそれに隣接する水辺環境の重要性を認識いただき、保全のための努力を要望します。

カワツルモについて

カワツルモ *Ruppia maritima* L. (ヒルムシロ科 カワツルモ属)



全国的に生育地の減少している水草。国内では汽水域を中心に分布している。夢洲の水域は雨水により形成されたものだが、土壌及び波浪による乗り越えでの塩分が供給されたことにより汽水的な環境が生じている。

大阪では同様に人工地盤の汽水環境であった南港で1996年に一時的に発生した事例が最後の発見。

大阪府南部では1960年代に採集されているが、その後確認されていない。

周辺でも兵庫県、和歌山県に生育地があるが、和歌山県で絶滅危惧 IA 類、兵庫県 A ランク（絶滅危惧 IA 類に相当）に指定されている。

水鳥による散布が考えられ、夢洲への移入は人為的なものは考えにくい。ヨシ原周辺の水辺にはツツイトモ、ホザキノフサモなども生息している。また、他の水域ではリュウノヒゲモ、ササバモなども見いだされている。水鳥の飛来の多さと考えられている。

公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会
会長 中西 宏明 様

関西自然保護機構 会長 石井 実
連絡先：大阪市東住吉区長居公園 1-23
大阪自然史センター 気付
TEL: 06-6697-6262

夢洲におけるヨシ群落及びそれに隣接する水辺環境の保全を求める要望書

2020年4月現在、大阪市住之江区にある夢洲は、広大な裸地や草地、水たまりが広がっており、環境省レッドリスト 2019 で絶滅危惧 II 類のコアジサシの繁殖が記録されているほか、大阪湾最大のカモ類の越冬地の一つであり、渡りの季節には希少種を含む多くのシギ・チドリ類の中継地としても重要です。隣接する大阪南港野鳥園は、渡りのシギ・チドリ類の種数・個体数が多いことから「日本の重要湿地 500」の一つに選定されていますが、夢洲の水域やそれに隣接するヨシ群落は、それよりも規模が大きく、重要性も高いと考えられます。こうした理由から、大阪府のレッドリスト及び、大阪市の生物多様性地域戦略では、夢洲を生物多様性の保全上特に重要な場所（Aランク：広域的な観点で見ても特に重要な場所）として取り上げています。

特に、夢洲南東部には、約1haの規模の大きなヨシ群落、及び隣接する浅い水域がまともに残されています。このヨシ群落は、夢洲に浅い水域が成立した後に、風や鳥によって種子が運ばれ再生したものと考えられます。このヨシ群落には、ウラギク（環境省レッドリスト 2019、及び大阪府のレッドデータブックで準絶滅危惧）が生育しており、冬期にはチュウヒ（環境省レッドリスト 2019 で絶滅危惧 IB 類）も見られます。ヨシ群落の周辺水域は、瀬戸内海東部で最大のツクシガモ（環境省レッドリスト 2019 で絶滅危惧 II 類）の越冬地になっています。大規模なヨシ群落が少なくなっている大阪府や大阪湾岸の現状を考えると、夢洲に残るヨシ群落及びそれに隣接する水域を保全することは、大阪府周辺の生物多様性保全の観点から非常に重要です。また、水域にヨシ群落が隣接して広がっている風景は、かつて大阪低地部で広く見られた風景であり、夢洲に大阪の原風景が残ることは、都市と自然の共存という観点からも特筆できるものになるでしょう。

しかし、夢洲が 2025 年の万博会場となることが決まって以降、急ピッチでこうした湿地・水域の埋め立てが進行しています。現在まとまった規模でヨシ群落が残されている場所は、夢洲南東部の一部（別紙参照）のみとなっていますが、この群落の周辺ではすでに埋め立て工事が始まりつつあります。現在残されている、このヨシ群落とそれに隣接する水域を継続的に維持していることは、上記で述べたとおり、生物多様性保全の観点からは重要となります。

関係各位におかれましては、夢洲におけるヨシ群落及びそれに隣接する水辺環境の重要性を認識していただき、本群落の残置・保存に向けた対策をして頂けるよう要望します。なお、関西自然保護機構は、近畿地方における広い意味での自然保護の諸問題に対するアドバイザー・ボディ（助言勧告機関）として、必要な協働に参画する意志があることをお伝えしておきます。

別紙 夢洲で2020年現在まとまって残されているヨシ群落の範囲（赤枠内）



同時資料提供
大阪科学・大学記者クラブ
大阪教育記者クラブ
南大阪記者クラブ
関西レジャー記者クラブ

令和3年6月25日
大阪市立自然史博物館
電話 06-6697-6222

2025年万博会場・夢洲において

大阪府で「絶滅」とされた水草「カワツルモ」を再発見

このたび、当館の学芸員が中心となって実施した夢洲の植物調査において、大阪府レッドデータリストで「絶滅」と判定されたカワツルモが再発見されました。この研究成果は水草研究会の会誌「水草研究会誌 (Bulletin of Water Plant Society, Japan)」に投稿済みで、111号に掲載予定です。当館の研究成果をぜひ貴社の記事として扱っていただきますよう、ご検討お願い申し上げます。

<発表のポイント>

■カワツルモは海岸沿いの汽水域に生育する水生植物で、大阪府下では1996年以降は全く記録がなく、生育環境も皆無と考えられたことから、「大阪府から絶滅」とされてきました。

■ところが、当館の学芸員が中心となって実施した夢洲の植物調査において、万博会場予定地の南東端の水域で再発見されました。水草類は水鳥とともに移動することが知られており、カワツルモもこのようにして他の生育地から移動してきたと考えられます。近畿地方まで広く見てもカワツルモの現存する生育地は極めて少なく、今回確認された生育地は非常に貴重です。

■しかし、カワツルモが確認された場所は今後、残土置き場等として利用されるため、まもなく埋め立てられる予定になっています。

■夢洲は、大阪府のレッドデータリスト2014において、生物多様性ホットスポットとして取り上げられており、大阪市生物多様性戦略の中でも、夢洲を重要な自然環境として取り上げています。カワツルモの生育地やその周辺のヨシ原も含めた保全が望まれます。

夢洲で発見されたカワツルモの標本や生育環境について以下の通り展示します。

○期間：令和3年6月26日（土）～8月29日（日）

○場所：大阪市立自然史博物館 本館1階・入り口付近



図1：カワツルモの確認地点（赤丸）。航空写真（2020年8月撮影）は大阪市が公開しているもの（<https://www.city.osaka.lg.jp/port/page/0000457222.html>）を使用。



図2：夢洲で発見されたカワツルモの生育環境



図 3 : 夢洲で発見されたカワツルモ



図 4 : カワツルモの特徴的な果実

1. 研究について

◆概要◆

低湿地や汽水域に生育する沈水性の水草類は、多くが絶滅の危機にあります。特に大阪湾岸では、自然海岸のほとんどが改変されており、このような水草類の自然状態での生育環境はほぼ消滅しています。一方で、埋め立て地や人工島などでも、造成後そのままの状態でも一定期間経過すると、湿地や草地が形成されることがあります。このような環境は鳥類等の生息地として注目されてきましたが、水草類の生育地としては重要視されてきませんでした。

大阪湾に浮かぶ人工島である夢洲にも、造成後で長期間放置されている場所があり、そのような場所では、わずかに塩分を含む止水環境やある程度まとまったヨシ群落など、大阪湾岸では稀になった環境が形成されています。しかし、2018年に夢洲が国際博覧会の開催予定地として決定されて以降、急ピッチで土地の造成が進行しており、現在残されている汽水環境やヨシ群落が大きく改変されつつあります。そこで改変前の植物相を把握するために、当館の学芸員が中心となり、2019年～2020年にかけて立ち入り許可を得て調査を実施しました。その結果、今回報告するカワツルモをはじめとして、リュウノヒゲモ、ツツイトモなど、貴重な水草類が発見されました。

カワツルモは、近畿地方においては生育地が極めて限定され、絶滅が危惧される植物で、大阪府では「絶滅」、兵庫県、和歌山県では「最も絶滅の危険性が高い」と判定されていました。このように、大阪湾岸のみではなく、近畿地方まで広く見てもカワツルモの現存する生育地は極めて少なく、今回確認された生育地は極めて貴重です。

夢洲は、大阪府のレッドデータリスト 2014において、隣接する野鳥園臨港緑地（元・大阪南港野鳥園）とともに生物多様性ホットスポット（希少な野生動植物が生息・生育し、種の多様性が高い地域）の一つとして取り上げられており、さらにその中でも、Aランク（規模的・質的に優れており、貴重性の程度が最も高く、全国的価値に相当するもの）に位置付けられています。また、大阪市においても、大阪市生物多様性戦略の中で、大阪府レッドリストを引用する形で夢洲を重要な自然環境として取り上げています。このように、夢洲は造成途中の人工的な場所である一方で、大阪府のレッドリストや大阪市の生物多様性戦略でも取り上げられている重要な自然環境でもあります。しかし、カワツルモ生育地を含め造成途中の段階で形成された水域の多くは、今後埋め立てが予定されています。特にカワツルモが確認された地点は、2025年の国際博覧会の会場の南東端に位置しており、早急に保全対策が必要です。

※兵庫県レッドデータブックでは最も絶滅の危険性が高いAランク、和歌山県レッドデータブックでも最も絶滅の危険性が高い絶滅危惧IA類とされています。

◆意義◆

カワツルモは、大阪湾岸のみならず、近畿地方まで広く見ても生育地が極めて限定され、絶滅が危惧される植物です。大阪府では、絶滅と判定された種の再発見となり、現在のところ、夢洲以外では確認されていません。今回確認された夢洲の生育地は規模としても大きく極めて重要です。また、水鳥類の生息環境としても重要であり、周囲のヨシ原も含めた保全が望まれます。

◆今後◆

今回確認されたカワツルモの生育環境は、今後埋め立てられる予定となっています。しかし、大阪府のレッドデータリスト 2014 や大阪市の生物多様性戦略でも触れられているように、夢洲は人工的な土地であると同時に、重要な自然環境でもあります。また、水草類は鳥類の移動とともに移動し、分布を広げることが知られています。今回発見されたカワツルモの生育環境については、カワツルモの生育環境だけではなく、周囲のヨシ原も含めて、鳥類の生育地としても保全し、残していくことが重要でしょう。

また、大阪市立自然史博物館では今回発見されたカワツルモとその生育環境の展示を行います。

2. お問い合わせ先

大阪市立自然史博物館

TEL : 06-6697-6221 FAX : 06-6697-6225

○広報および広報用画像に関するお問い合わせ

総務課 広報担当 森松 五月（もりまつ さつき）

Email: s-morimatsu@ocm.osaka

○研究の内容に関するお問い合わせ

植物研究室 学芸員 長谷川 匡弘（はせがわ まさひろ）

Email: hasegawa@mus-nh.city.osaka.jp

3. 施設の基本情報

大阪市立自然史博物館

〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園 1-23

TEL : 06-6697-6221 FAX : 06-6697-6225

大阪メトロ御堂筋線「長居」駅下車3号出口・東へ800m

JR 阪和線「長居」駅下車東出口・東へ1000m

常設展示観覧料：大人 300 円、高大生 200 円

※中学生以下、障がい者手帳などをお持ちの方、市内在住の 65 歳以上の方（要証明）は無料。

ホームページ <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>